200721012B

厚生労働科学研究費補助金

がん臨床研究事業

早期消化管がんに対する内視鏡的治療の安全性と有効性の評価に関する研究

平成17年度～19年度　総合研究報告書

主任研究者　武藤　学

平成20(2008)年　4月

目　　次

Ⅰ．総合研究報告
早期消化管がんに対する内視鏡的治療の安全性と有効性の評価に関する研究 ---------- 1
【武藤　学】

Ⅱ．研究成果の刊行に関する一覧表 ---------- 21

Ⅲ．研究成果の刊行物・別刷 ---------- 別冊

総合研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
総合研究報告

早期消化管がんに対する内視鏡的治療の安全性と有効性の評価に関する研究

主任研究者　武藤　学　　京都大学大学院医学研究科　消化器内科学講座　准教授

研究要旨
これまで外科手術が標準治療であった粘膜下層浸潤食道がんに対し、低侵襲治療として内視鏡的粘膜切除(EMR)を施行した後に化学放射線療法を追加する新しい治療戦略の安全性と有効性を評価する第II相臨床試験Japan Clinical Oncology Group(JCOG)0508を開始した。本研究は、内視鏡治療をふくんだ我が国で初めての本格的な多施設共同研究であり、放射線治療の面からも適切な照射線量および照射野の精度向上のためにCTシミュレーターを用いた３次元照射を行う放射線照射法を導入したはじめての試験でもある。とくに、これまで食道癌では60Gyが原発巣における至適な根治照射総線量とされていたが、原発巣の遺残がない場合は41.4Gy(１回1.8Gy)、ある場合でも50.4Gyとすることで化学放射線療法の晩期毒性の軽減も目指している点で注目される。現在、JCOG参加施設のなかで、３次元照射が可能な20施設で症例を登録中である。

分担研究者	所属機関及び所属機関における職名
武藤　学	京都大学医学研究科准教授
小野　裕之	静岡県立静岡がんセンター部長
高橋　寛	癌研究会有明病院所長
二瓶　圭二	国立がんセンター東病院臨床開発センター医員
田村　孝雄	神戸大学講師
田辺　聡	北里大学講師
西崎　朗	兵庫県立成人病センター部長
土田　知宏	癌研究会有明病院医長
門馬　久美子	東京都立駒込病院部長
伊藤　芳紀	国立がんセンター中央病院医員
千葉　勉	京都大学医学研究科教授
飯石　浩康	大阪府立成人病センター局長／部長
金子　和弘	国立がんセンター東病院医長
澤木　明	愛知県がんセンター中央病院医長
小山　恒男	厚生連佐久総合病院部長
小林　望	栃木県立がんセンター医員
吉田　元樹	熊本地域医療センター医長
田中　正博	大阪市立総合医療センター部長
吉井　貴子	神奈川県立がんセンター医長

A. 研究目的

難治がんのひとつとされる食道がんが内視鏡診断技術の進歩によって早期の段階で発見されるようになり、より低侵襲で根治性の高い治療法の開発が求められるようになってきた。本研究では、これまで外科手術が標準治療であった粘膜下層に浸潤する食道がんに対し、低侵襲治療としてEMRを施行した後に、3次元照射による精度の高い放射線照射に加え総線量を減らした化学放射線療法を追加する新しい治療戦略の安全性と有効性を評価する。

B. 研究方法

「粘膜下層浸潤clinical stage I(T1N0M0)食道癌に対するEMR/化学放射線療法併用療法の有効性に関する第II相試験：JCOG0508」をJCOG参加施設で実施する。EMRは入院の上、2チャンネル法、キャップ法、EEMRチューブ法のいずれかを用いて行う。ただし、ESD実施術者として許可を受けた場合のみ、ESDによる切除も

許容する。一括切除を原則とするが、計画的分割切除も許容する。最後にヨード不染帯がないことを確認してから終了する。化学放射線療法（pM3以浅かつ脈管侵襲陰性かつ断端陰性の場合は施行しない）は、以下のレジメンで実施する

①予防的化学放射線療法： a) pSM1-2かつ断端陰性の場合、b) pM3以浅かつ脈管侵襲陽性かつ断端陰性の場合

5-FU： 700 mg/m2 (civ), day 1-4, 29-32

CDDP： 70 mg/m2 (div), day 1, 29

RT： 41.4 Gy/23 fr/5 wks (5 days/week)

②根治的化学放射線療法： a) 断端陽性、もしくは判定不能だった場合、b) 明らかに腫瘍が残存している場合、c) 組織学的評価が十分にできなかった場合

5-FU： 700 mg/m2 (civ), day 1-4, 29-32

CDDP： 70 mg/m2 (div), day1, 29

RT： 50.4 Gy/28 fr/6 wks (5 days/week

Primary endpointは、EMR後の組織学的深達度診断により、pSM1-2かつ断端陰性と診断された患者における3年生存割合とした。Secondary endpointは、1)全適格患者の3年生存割合、2)全適格患者の無増悪生存期間、3)EMR後の組織学的深達度診断により、pM3かつ断端陰性と診断された患者における全生存期間、4)EMRによる有害事象、5)化学放射線療法による有害事象とした。予定登録数は、pSM1-2かつ断端陰性の患者を82名（全適格患者で137名程度を予定）登録する。登録期間は3年を見込んでおり、登録終了後5年追跡期間する（主たる解析は登録終了後3年）。

（倫理面への配慮）

ヘルシンキ宣言および我が国の「臨床研究に関する倫理指針」に従って研究実施計画書を作成し、プロトコールの審査委員会(IRB) 承認が得られた施設からしか患者登録を行わない。全ての患者について登録前に充分な説明と理解に基づく自発的同意を本人より文書で得る。データの取り扱い上、患者氏名等直接個人が識別できる情報を用いず、かつデータベースのセキュリティを確保しプライバシー保護を厳守する。研究の第三者的監視：JCOGを構成する他の研究班の主任研究者等と協力して、臨床試験審査委員会、効果・安全性評価委員会、監査委員会を組織し、研究開始前および研究実施中の第三者的監視を行う。

C. 研究結果

【平成17ー19年度までの成果】

1) 内視鏡医、化学療法医、放射線治療医間の意見調整（平成17年度ー平成18年度前半）：本研究の対象である食道癌の治療は、外科切除・内視鏡治療・化学療法・放射線療法による集学的治療により治療成績の向上が期待され、単独診療科で対応きる治療体系ではない時代になっている。しかし、実際の臨床の現場では診療科を超えた医療の実践には大きな壁がまだまだ存在しているのが事実である。本研究班では、まず内視鏡医、腫瘍内科医、放射線科医と複数の診療科がかかわる集学的治療体制を整えることに取り組んだ。平成17年度の研究成果は、これまで縦割りの診療体制であった食道癌診療を横断的診療体制に整えることに成功し、参加施設のコンセンサスを得ることができた点である。

2) 研究プロトコル作成（平成17年度ー平成18年度前半）

平成17年度に、その診療体系を基盤として「粘膜下層浸潤臨床病期I期(T1N0M0)食道癌に対する内視鏡的粘膜切除術(EMR)と化学放射線療法併用療法の有効性に関する第II相試験（JCOG0508）」のプロトコル作成を行った。また、これまでにない発想での治療戦略の臨床的意義を明らかにすることを目的とするために以下に示すような調整が必要であった。

① 内視鏡医の診断・治療に関する品質管理

わが国の早期消化管がんの診断技術は世界最高レベルであり、それが故に内視鏡治療技術も同時に発展してきた。その一方、内視鏡治療は単一施設での経験に基づいた評価がほとんどで、客観的にその安全性と有効性を評価するシステムがこれまでなかった。今後、早期消化管がんに対する内視鏡治療の標準化をはかるためには、臨床研究をもとにしたエビデンス作りが急務であることは明白であるが、本研究開始の時点ではまだその体制は未熟なものであったため、まず初年度には、これまで抗がん剤治療による臨床研究で実績を積んできたJCOG参加施設のなかでその体制つくりをすることから着手した。さらに、対象となる病変の診断

能におおきなばらつきが生じると試験遂行はもとよりその有効性が示されたとしても実臨床に反映されないことが危惧されるため、内視鏡診断能に関する目あわせを何度も行い品質管理を行った。次に手技の標準化を図るため内視鏡治療手技に関して、各参加予定施設からもちよったビデオを閲覧し品質管理に十分時間をかけた。

② 放射線治療医のコンセンサス

これまでの食道癌に対する化学放射線療法では、前後対向2門照射で一日2Gy、計30回照射（総線量60Gy）がひろく普及してきたが、本レジメンによる心臓や肺の重篤な晩期毒性が10-20%で起きることが明らかになり、根治が70-80%期待できる本試験の対象群においては、このような晩期毒性が発生することはQOLおよび根治性の面から避けなくてはならない。本研究では、欧米では標準とされる3次元照射計画を採用し、リスク臓器の障害が起きないように線量分布をより精密に計算し、さらに一日1.8Gyで計23~28回照射として総線量（41.4~50.4Gy）を減らすよう配慮した。この取り組みは、今後の食道癌に対する化学放射線療法の開発において、根治性・毒性の両面から非常に重要な意義をもつものである。しかしながら、前述のように我が国ではまだ60 Gyが標準的放射線総線量とする放射線治療医も非常に多いため、その受け入れには予想以上に努力が必要で、照射野の設定や総線量に関して、放射線治療医との合意形成のために何度も会議を行った

③ プロトコル完成

高い質の臨床試験を遂行するためには、研究グループの品質管理がきわめて重要であることから、このように綿密な体制つくりのために約１年半を要した。最終的には、JCOG参加施設のなかでこの取り組みの受け入れが可能である施設のみを本試験参加施設として調整し、プロトコル完成が平成18年度にずれ込んだ。

３）研究開始（平成18年度後半ー平成19年度）

平成18年度にプロトコルを完遂させ、症例登録を開始した。平成19年度は、全20施設のIRB承認が得られ、症例登録も増加傾向にある。

D. 考察

早期消化管がんに対する内視鏡治療が諸外国より普及しているわが国において、その有用性と安全性を科学的に評価する多施設共同前向き臨床試験はこれまで実施されてこなかった。加えて、本研究では、内視鏡治療、化学療法、放射線療法と多岐にわたる治療モダリティーを組み合わせて、それぞれのメリットを生かして低侵襲かつ根治性の高い治療を実現させることを目指している。この新しい挑戦を実施するにあたり、質の高い臨床試験を行うことが必要であり、本研究に参加するすべての研究者の理解と合意が重要である。本試験が開始されたことで内視鏡治療を用いた新しい治療戦略が期待できる。

E. 結論

内視鏡診断と治療の分野で世界をリードする我が国において、内視鏡医療を中心とした臨床研究チームを構築した。そのなかで、これまで外科手術が標準治療であった粘膜下層浸潤食道がんに対し、内視鏡的粘膜切除後に化学放射線療法を追加する新しい治療戦略に関する多施設共同臨床試験(JCOG0508)を開始した。

F. 健康危惧情報

現時点では特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1) H. ONO, N. HASUIKE, T. INUI, Usefulness of a novel electrosurgical knife, the insulation-tipped diathermic knife-2, for endoscopic submucosal dissection of early gastric cancer. Gastric Cancer. (in press, 2008)

2) Yoshida S, Ikehara N, Aoyama N, Shirasaka D, Sakashita M, Semba S, Hasuo T, Miki I, Morita Y, Tamura T, Azuma T, Yokozaki H, Kasuga M. Relationship of BRAF mutation, morphology, and apoptosis in early colorectal cancer. Int J Colorectal Dis. 2008 Jan;23(1):7-13.

3) Ishihara R, Iishi H et al. Local recurrence of large squamous cell

carcinoma of the esophagus after endoscopic resection. Gastrointestinal Endoscopy. 2007 in press

4) Minashi K. Muto M. Ohtsu A. Nonsurgical treatment of superficial esophageal squamous cell carcinoma. Esophagus. 4,159-164, 2007

5) Takeuchi S, Ohtsu A, Doi T, Kojima T, Minashi K, Mera K, Yano T, Tahara M, Muto M, Nihei K. A retrospective study of definitive chemoradiotherapy for elderly patients with esophageal cancer. Am J Clin Oncol. ;30(6):607-11, 2007

6) Fuse N, Doi T, Ohtsu A, Takeuchi S, Kojima T, Taku K, Tahara M, Muto M, Asaka M, Yoshida S. Feasibility of oxaliplatin and infusional fluorouracil/leucovorin (FOLFOX4) for Japanese patients with unresectable metastatic colorectal cancer. Jpn J Clin Oncol.;37(6):434-9, 2007

7) Muto M, Fujishiro M, Sato Y, Niwa Y, Kaise M, Kato M, Takubo K. Multicenter study design of the ex vivo evaluation of endocytoscopy in esophageal squamous cell carcinoma. Dig Endosc 19:S153-5, 2007

8) Chikatoshi Katada, Manabu Muto, Kumiko Momma, Miwako Arima, Hisao Tajiri, Chiho Kanamaru, Hironobu Ooyanagi, Hisashi Endo, Tomoki Michida, Noriaki Hasuike, Ichiro Oda, Takahiro Fujii, Daizo Saito Clinical outcome after endoscopic mucosal resection for esophageal squamous cell carcinoma invading the muscularis mucosa- a multicenter retrospective cohort study. Endoscopy 39:779-783, 2007

9) Hosokawa A, Sugiyama T, Ohtsu A, Doi T, Hattori S, Kojima T, Yano T, Minashi K, Muto M, Yoshida S. Long-term outcomes of patients with metastatic gastric cancer after initial S-1 monotherapy. J Gastroenterol. ;42(7):533-8, 2007

10) A Phase I Study of Hypofractionated Radiotherapy followed by Systemic Chemotherapy with Full-dose Gemcitabine in Patients with Unresectable Locally Advanced Pancreatic Cancer. Furuse, J; Nihei, K; et al. Hepatogastroenterology 2007,54(77),1575-1578.

11) Retrospective Study of Definitive Chemoradiotherapy for Elderly Patients With Esophageal Cancer. Takeuchi, S., Nihei, K., et al. Am J Clin Oncol 30(6):607-611, 2007.

12) A Multicenter Phase II Study of Local Radiation Therapy for Stage IEA Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphomas: A Preliminary Report From the Japan Radiation Oncology Group (JAROG) K. Isobe, K. Nihei, et al. Int J Radiat Oncol Biol Phys 69(4):1181-1186,2007.

13) Proton-beam therapy for olfactory neuroblastoma. Hideki Nishimura, Keiji Nihei, et al. Int J Radiat Oncol Biol Phys 68(3):758-762,2007.

14) Initial Experience with the Quality Assurance Program of Radiation Therapy on behalf of Japan Radiation Oncology Group (JAROG). Koichi Isobe, Keiji Nihei, et al. Jpn. J. Clin. Oncol. 2007:37(2)135-139

15) Okuno T, Tamura T, Yamamori M, Chayahara N, Yamada T, Miki I, Okamura N, Kadowaki Y, Shirasaka D, Aoyama N, Nakamura T, Okumura K, Azuma T, Kasuga M, Sakaeda T. Favorable genetic polymorphisms predictive of clinical outcome of chemoradiotherapy for stage II/III esophageal squamous cell carcinoma in Japanese. Am J Clin Oncol. 2007 Jun;30(3):252-7.

16) Tanabe S, Koizumi W, Higuchi K, et al. Clinical outcome of endoscopic oblique

aspiration mucosectomy for superficial esophageal cancer. Gastrointestinal Endoscopy 2007 (in press).

17) Higuchi K, Tanabe S, Koizumi W, Sasaki T, Nakatani K, Saigenji K, Kobayashi N, Mitomi H. Expansion of the indications for endoscopic mucosal resection in patients with superficial esophageal carcinoma. Endoscopy. 2007, 39:36-40

18) Shimizu T, Sekine I, Sumi M, Ito Y, Yamada K, Nokihara H, Yamamoto N, Kunitoh H, Ohe Y, Tamura T. Concurrent Chemoradiotherapy for Limited-disease Small Cell Lung Cancer in Elderly Patients Aged 75 Years or Older. Jpn J Clin Oncol 37:181-185, 2007.

19) Sekine I, Sumi M, Ito Y, Kato T, Fujisaka Y, Nokihara H, Yamamoto N, Kunitoh H, Ohe Y, Tamura T. Phase I Study of Cisplatin Analogue Nedaplatin, Paclitaxel, and Thoracic Radiotherapy for Unresectable Stage III Non-Small Cell Lung Cancer. Jpn J Clin Oncol 37:175-180, 2007.

20) Yamazaki H, Nishiyama K, Tanaka E, Koiwai K, Shikama N, Ito Y, Arahira S, Tamamoto T, Shibata T, Tamaki Y, Kodaira T, Oguchi M. Dummy run for a phase II multi-institute trial of chemoradiotherapy for unresectable pancreatic cancer: inter-observer variance in contour delineation. Anticancer Res 27:2965-2971, 2007.

21) Ikeda M, Okusaka T, Ito Y, Ueno H, Morizane C, Furuse J, Ishii H, Kawashima M, Kagami Y, Ikeda H. A phase I trial of S-1 with concurrent radiotherapy for locally advanced pancreatic cancer. Br J Cancer 96:1650-1655, 2007.

22) Ishihara R, Iishi H et al. Local recurrence of large squamous cell carcinoma of the esophagus after endoscopic resection. Gastrointestinal Endoscopy. 2007 in press

23) Kaneko k et al. Study of *p53* gene alteration as a biomarker to evaluatethe malignant risk of Lugol-unstained lesion with non-dysplasia in the oesophagus. Brit J Cancer 96;492-498:2007.

24) To H, kaneko K et al. Interleukin-1 beta gene in esophageal, gastric, and colorectlal carcinoma. Oncol Rep 18;473-481:2007.

25) Nishimura Y, Nakagawa K, Takeda K, Tanaka M, et al.. Phase I/II trial of sequential chemoradiotherapy using a novel hypoxic cell radiosensitizer, doranidazole (PR-350), in patients with locally advanced non-small-cell lung Cancer (WJTOG-0002). Int J Radiat Oncol Biol Phys. 69(3):786-92. 2007.

26) Tanaka S, Yoshiyama M, Tanaka M, et al. Measuring visceral fat with water-selective suppression methods (SPIR, SPAIR) in patients with metabolic syndrome. Magn Reson Med Sci. 6(3):171-5. 2007.

27) Dal Ho Kim, Manabu Muto, et al., Array-based comparative genomic hybridization of circulating esophageal tumor cells. Oncology reports 16: 1053-1059, 2006

28) Manabu Muto, et al., Endoscopic Diagnosis of Intraepithelial Squamous Neoplasia in Head and Neck and Esophageal Mucosal Sites. (Endoscopic Diagnosis of Hypopharyngeal, Esophageal and Gastric Neoplasm) Digestive Endoscopy 18(Suppl. 1):S2-S5, 2006

29) Akira Yokoyama, Manabu Muto ,et al., Esophageal Squamous Cell Carcinoma and Aldehyde Dehydrogenase-2 Genotypes in Japanese Females. Alcoholism Clinical & Experimental Research 30(3):491-500, 2006

30) M. Saeki, M. Muto, et al., Haplotype Structures of the UGT1A Gene Complex in a Japanese Population. Pharmacogenomics Journal,

6: 63-75, 2006

31) Akio Ashida, Manabu Muto, et al., Expression profiling of esophageal squamous cell carcinoma patients treated with definitive chemoradiotherapy: Clinical implications. Int J Oncol. 28(6): 1345-52, 2006

32) High dose proton beam therapy (PBT) for stage I non-small cell lung cancer (NSCLC). Keiji Nihei, et al. Int J Radiat Oncol Biol Phys 65(1):107-111,2006

33) Ono H. Early gastric cancer: diagnosis, pathology, treatment techniques and treatment outcomes. Eur J Gastroenterol Hepatol. 2006 Aug;18(8):863-6.

34) Minami S, Gotoda T, Ono H, Complete endoscopic closure of gastric perforation induced by endoscopic resection of early gastric cancer using endoclips can prevent surgery (with video). Gastrointest Endosc. 2006 Apr;63(4):596-601.

35) Okuno T., Tamura T., et al. Favorable genetic polymorphisms predictive of clinical outcome of chemoradiotherapy for Stage II/III esophageal squamous cell carcinoma in Japanese. The American Journal of Clinical Oncology. in press

36) Toyoda M, Tamura T., et al. Impact of Helicobacter pylori eradication therapy on histologic change in the distal esophagus. Helicobacter. 2006 Aug;11(4):217-23.

37) Komoto C., Tamura T., et al. MDR1 haplotype frequencies in Japanese and Caucasian, and in Japanese patients with colorectal cancer and esophageal cancer. Drug Metab Pharmacokinet. 2006 Apr;21(2):126-32.

38) Expansion of the indications for endoscopic mucosal resection in patients with superficial esophageal carcinoma. Higuchi K, Tanabe S, Koizumi W, Sasaki T, Nakatani K, Saigenji K, Kobayashi N, Mitomi H. Endoscopy 2007; 39: 36-40.

39) Ito Y, et al. Evaluation of Acute Intestinal Toxicity in Relation to the Volume of Irradiated Small Bowel in Patients Treated with Concurrent Weekly Gemcitabine and Radiotherapy for Locally Advanced Pancreatic Cancer. Anticancer Res 26:3755-3760, 2006

40) Uza N, Nakase H, Nishimura K, Yoshida S, Kawabata K, Chiba T: Solitary rectal ulcer syndrome associated with ulcerative colitis. Gastrointest Endosc 63(2): 355-6: 2006.

41) Aoi T, Marusawa H, Sato T, Chiba T, Maruyama M: Risk of subsequent development of gastric cancer in patients with previous gastric epithelial neoplasia. Gut 55(4):588-589:2006.

42) Asada M, Yazumi S, Yoshimoto T, Tamaki H, Matsuura M, Hasegawa K, Uenoyama Y, Hisatsune H, Nishio A, Chiba T: Transpapillary biliary biopsy for early stage cholangiocarcinoma of the distal common bile duct. Gastrointest Endosc 64(1):125-126:2006.

43) Fukui T, Sakurai T, Miyamoto S, Ueno S, Kido M, Kiriya K, Inoue S, Ohashi S, Nishio A, Chiba T: Education and imaging. Gastrointestinal: Epidermal metaplasia of the esophagus. J Gastroenterol Hepatol 21(10):1627:2006.

44) Uza N, Nakase H, Kuwabara H, Fujii S, Chiba T: Cecal cancer associated with long-standing Crohn's disease. Lancet 368(9549):1842:2006.

45) Uedo N. Iishi H., et al. Novel Autofluorescence videoendoscopy imaging system for diagnosis of cancers in the digestive tract. Dig. Endosc., 18(suppl. 1)S131-136, 2006.

46) Uedo N., Iishi H., et al. Longterm outcome after endoscopic mucosal resection for early gastric cancer. Gastric Cancer, 9: 88-92, 2006

47) Uedo N., Iishi H., et al. A new method of gastric intestinal metaplasia: narrow-band

imaging with magnifying endoscopy Endoscopy, 38: 819-824, 2006.

48) Syuko Morita, Tsuneo Oyama, et al., Superficial esophageal cancer type 0-IIa+IIc (m2): A case atlas. Esophagus, 3:197-200, 2006

49) Muto M., et al. Narrowband imaging: A new diagnostic approach to visualize angiogenesis in the superficial neoplasia. Clin Gastroenterol Hepatol. 3:S16-20, 2005

50) Yano T., Muto M., et al. Photodynamic therapy as salvage treatment for local failures after definitive chemoradiotherapy for esophageal cancer. Gastrointest Endosc. 62(1):31-36, 2005

51) Muto M., et al. Risk of multiple squamous cell carcinomas both in the esophagus and the head and neck region. Carcinogenesis. 26(5):1008-1012, 2005 Feb 17.

52) Katada C., Muto M., et al. Local recurrence of squamous-cell carcinoma of the esophagus after EMR. Gastrointest Endosc. 61(2):219-225, 2005 Feb.

53) Muto M., et al. Endoscopic mucosal resection in the stomach using the insulated-tip needle-knife. Endoscopy, 37(2): 178-82, 2005 Feb.

54) Ono H. Endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer. Chin J Dig Dis. 2005;6(3):119-21.

55) Miki I, Tamura T, et al. Circadian Variability of Pharmacokinetics of 5-Fluorouracil and CLOCK T3111C Genetic Polymorphism in Patients With Esophageal Carcinoma. Ther Drug Monit. 2005 Jun;27(3):369-374.

56) Keiji Nihei, et al. Phase II Feasibility Study of High-Dose Radiotherapy for Prostate Cancer Using Proton Boost Therapy: First Clinical Trial of Proton Beam Therapy for Prostate Cancer in Japan. Jpn J Clin Oncol 35(12):745-752, 2005.

57) Keiji Nihei, et al. High dose proton beam therapy (PBT) for stage I non-small cell lung cancer (NSCLC). Int J Radiat Oncol Biol Phys (in press)

58) Morizane C, Ito Y, et al. Chemoradiotherapy for locally advanced pancreatic carcinoma in elderly patients. Oncology, 68: 432-7, 2005

59) Yonemori K, Ito Y, et al. Pro-gastrin-releasing peptide as a factor predicting the incidence of brain metastasis in patients with small cell lung carcinoma with limited disease receiving prophylactic cranial irradiation. Cancer, 15: 811-6, 2005

60) Ishikura S, Ito Y, et al. A phase I/II study of nedaplatin and 5-fluorouracil with concurrent radiotherapy in patients with T4 esophageal cancer: Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG 9908). Esophagus, 2: 133-137, 2005

61) 土田 知宏、瀬戸泰之、山口俊晴 EMR の適応と手技 消化器外科 31(1):23-29 2008

62) 工藤 豊樹、三梨 桂子、武藤 学 特集 ここが知りたい他科知識 悪性腫瘍について知っておきたいこと 早期食道癌の内視鏡所見と治療法は？ JOHNS 23(3):479-484 2007

63) 江副 康正、武藤 学 狭窄対策としてのバルーン拡張術 ESD(endoscopic submucosal dissection)の周術期管理 176-183 日本メディカルセンター (2007)

64) 西崎 朗、他、早期胃癌に対する ESD－非 ESD との比較；臨床消化器内科, 23, 1, 55-60, 2008

65) 西崎 朗、他、Barrett 食道および Barrett 食道癌の内視鏡診断；臨床消化器内科 22, 1, 43-

47, 2007

66) 門馬　久美子、他　食道T1a-MM・SM1癌内視鏡切除後の経過　胃と腸　2007

67) 門馬久美子, 他, 内視鏡的食道粘膜切除術, 消化器外科NURSING, 12: 64−67, 2007

68) 伊藤芳紀. 解説-大腸癌治療ガイドライン 5. 放射線療法. 大腸疾患NOW 2007. 2007, 43-49, 日本メディカルセンター, 東京.

69) 伊藤芳紀、奥坂拓志、上野秀樹、池田公史、森実千種、馬屋原博、加賀美芳和、角美奈子、今井敦、池田恢. 局所進行膵癌に対する化学放射線療法ー5-FU系抗癌剤との併用ー. 胆と膵 28:803-808, 2007

70) 宮本心一、青井貴之、森田周子、新田孝幸、西尾彰功、千葉　勉: フード型双極ナイフ(B-Cap)を用いた粘膜下層剥離術.　臨床消化器内科 Vol.22, No.9, 2007. 1263-5.

71) 宮本心一、青井貴之、森田周子、新田孝幸、西尾彰功、千葉　勉: フード型双極ナイフ(B-Cap)を用いた粘膜下層剥離術.　消化器医学　Vol.5, 2007. 74-7.

72) 石原立、飯石浩康. 食道m1, m2癌EMR後の長期成績. 胃と腸. 42:1309-1315;2007

73) 小山恒男、他、Barrett食道癌の治療　(1)内視鏡下治療の適応と方法、臨床消化器内科、22(1):91-97、2007

74) 本橋　修、高木精一、中山昇典、西村　賢、柳田直毅、吉井貴子、亀田陽一：食道ESD手技における粘膜把持かん子用チャンネルつき透明フードの有用性—実験的検討—：Gastroenterological Endoscopy. Vol.49(11): Nov. 2007, p2819-2824.

75) 本橋　修、西村　賢、中山昇典、高木精一、吉井貴子、柳田直毅、亀田陽一：内視鏡手技における私の工夫（粘膜把持カン子用チャンネル付き透明フードを用いるESD）：Progress of Digestive Endoscopy Vol.7 No.2 (2007) 25-27.

76) 三梨　桂子、武藤　学、他、食道粘膜下層浸潤癌に対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）と化学放射線療法（CRT）の併用治療の試み、消化器科、43(5):437-444、2006

77) 浅田　由樹、武藤　学、他、食道病変：色素内視鏡による鑑別診断　—NBIとの対比および併用の有用性—、消化器内視鏡、18(12):1842-1848、2006

78) 三梨　桂子、武藤　学、他、治療成績からみた食道m3・sm癌の治療方針、化学放射線療法（CRT）の治療成績、胃と腸、41(10):1467-1474、2006

79) 三梨　桂子、武藤　学、他、咽頭領域癌の診療　—癌の病態、内視鏡治療、CRT—、消化器内視鏡、18(9):1380-1388、2006

80) 国立がんセンター東病院消化器内科　責任編集　武藤学、他、消化器癌診療における治療内視鏡実践ハンドブック、医学書院、2006

81) 武藤　学、他、各論1. 早期癌に対する内視鏡治療、1）中・下咽頭、2006

82) 武藤　学、内視鏡の新しい展開　ー照明光の特性と内視鏡、NBI(Narrow Band Imaging)（2）咽頭・食道の癌とNBI、臨牀消化器内科、21(1): 39-46 、2006

83) Target Volume Delineation のコツとピットフォール　2次元治療計画から3次元治療計画へ　5. 食道癌　二瓶　圭二　日本放射線腫瘍学会 NEWSLETTER　2006年No.4通巻82号　29-33

84) 術後PSA再発に対する救済放射線治療の適応と考え方　二瓶　圭二　臨床放射線別冊　前立腺癌放射線治療のすべてー局所限局前立腺癌を中心にー 2006 317-327

85) 化学放射線療法における放射線治療の動向　ー食道癌を例にあげて　二瓶　圭二　医学のあゆみ別冊　消化器疾患　state of arts　I.消化管（食道・胃・腸）2006 345-348

86) 食道癌に対する放射線治療　二瓶　圭二、他　臨床消化器内科　2006;21(3):291-297.

87) 小野裕之, 乾哲也, 蓮池典明, 他　早期胃癌に対するESD切除成績と切除困難例の特徴　胃と腸41巻1号 Page37-44(2006.01)

88) 小野裕之, 乾哲也, 蓮池典明　早期癌に対する内視鏡治療　ESD　ITナイフ、　胃と腸41巻4号 Page523-526(2006.04)

89) 小野裕之　早期胃癌に対するESDと腹腔鏡下手術の接点　胃と腸41巻11号 Page1535-1537(2006.10)

90) 門馬久美子, これからの食道早期癌拾い上げ診断　ー

NBIの立場から－，胃と腸，41： 151-164，2006
91) 門馬久美子，食道　2チャンネル法，胃と腸，41：466-473，2006
92) 門馬久美子，食道表在癌深達度診断(通常観察)，消化器内視鏡，18：674-679，2006
93) 門馬久美子，ESD時代の2チャンネル法-早期食道癌に対する治療：2チャンネル法でここまで行ける-，消化器内視鏡，18：1081-1088，2006
94) 門馬久美子，早期の中・下咽頭癌の内視鏡診断と治療－早期病変を中心に－，消化器内視鏡，18：1396-1405，2006
95) 門馬久美子，治療成績からみた食道m3・sm1癌の治療方針　EMR+αの治療成績：m3・sm1癌を中心に，胃と腸，41：1447-1458，2006
96) 門馬久美子，食道微小癌の内視鏡診断－NBI併用観察－，消化器の臨床，9：543－548，2006
97) 門馬久美子，食道悪性疾患，臨床外科，61：1427-1434，2006
98) 門馬久美子，他，胸部食道癌治療としての内視鏡敵粘膜切除術（EMR），外科治療，95:，2006
99) 伊藤芳紀．局所進行膵癌に対する 化学放射線療法．臨床放射線51：3　43-352，2006.
100) 伊藤芳紀、他．直腸癌補助放射線療法-日本で標準治療となり得るか．外科治療 95:43-51，2006.
101) 伊藤芳紀、他．直腸癌に対する化学放射線療法．臨床放射線 51:1727-1736，2006.
102) 小山恒男、他、ESDのためのこだわりの術前診断、消化器内視鏡、18(2)：187-194、2006
103) 小山恒男、他、ESD修得前に必要とされる基本テクニック、①ESDに求められる術前診断、臨床消化器内科、21(9)：1227-1233、2006
104) 小山恒男、他、Barrett食道およびBarrett食道癌の拡大観察、臨床消化器内科、21(4)：407-412、2006
105) 小山恒男、他、HEMOSTASIS WITH HOOK KNIFE DURING ENDOSCOPIC SUBMUCOSAL DISSECTION、Digestive Endoscopy、18(1)：　2006
106) 小山恒男、他、Barrett食道癌のESD、消化器の臨床、9(1):66-72、2006
107) 小山恒男、他、早期癌に対する内視鏡治療　2・食道④ESD、胃と腸、41(4):491-497、2006
108) 小山恒男、他、これからの食道早期癌拾い上げ診断、胃と腸、41(2):145-150、2006
109) 小山恒男、他、ESD，Hookナイフで過不足のない一括切除を、消化器内視鏡、18(7):1097-1102、2006
110) 田中雅樹、小山恒男、他、咽頭・喉頭・食道の観察、消化器内視鏡、18(5):626-631、2006
111) 小山恒男、他、Barrett食道癌の治療　(1)内視鏡下治療の適応と方法、臨床消化器内科、22(1):91-97、2007
112) 小林　望、他：症状から見た食道疾患．医事新報 291：49-52，2006
113) 吉田　元樹、他、経皮内視鏡的胃瘻造設術113-130、山下啓史、廣中秀一、矢野友規，他、治療内視鏡実践ハンドブック、医学書院、2006
114) 吉田　元樹、他、消化器内視鏡ステント留置術176-193、多久佳成、山下啓史、吉田元樹、他、治療内視鏡実践ハンドブック、医学書院、2006
115) 武藤　学：特集・消化管がんのＥＭＲ治療　中・下咽頭癌．クリニカ，32(5)別冊：256-260 トプコ（2005）
116) 武藤　学：特集：消化管腫瘍の内視鏡的診断と治療　－最新の動向を探る＜消化管腫瘍の疫学＞中・下咽頭癌と食道癌のリスクファクターと早期発見のポイント．内科，96(4)：625-629　南江堂（2005）
117) 武藤　学、他：パネルディスカッション　食道領域のChemoradiation　食道sm癌に対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）と放射線科学療法（CRT）を用いた非外科的治療．日本気管食道科学会会報（日気食会報），56(2)：179-180，2005
118) 三梨　桂子、武藤　学：食道癌に対する化学・放射線療法．消化器病セミナー，99：97-111，2005
119) 小島隆嗣、武藤　学、他：「特集：食道癌の診断から治療まで：最近の動向」．画像診断：内視鏡，25(5):576-589秀潤社（2005）
120) 矢野友規、武藤　学、他：食道癌放射線化学療法後の胃残再発症例に対する非外科的治療．臨床外科，60(2):201-205医学書院（2005）
121) 小野裕之、他：上部消化管治療ESDの基本とコツITナイフ．消化器内視鏡17巻10号1587-1590，

2005

122) 西崎　朗：表在Barrett食道癌の通常内視鏡診断と治療　消化器科41巻1号 35-41, 2005

123) 西崎　朗：消化器病学の進歩2005- モノグラフ- 消化管編　表在性Barrett食道癌の通常内視鏡診断と治療　日本消化器病学会編　メディカルレビュー社　東京p130-133 2005

124) 伊藤芳紀：消化器がん(食道がん・肛門管がん・直腸がん)に対する放射線治療. 診療と新薬, 42：1257-1291, 2005

125) 伊藤芳紀：骨転移痛に対する放射線療法の現状と新しい試み. 緩和医療学, 7(4)：366-373, 2005

126) 伊藤芳紀：直腸がんの放射線療法. がん看護, 10(4)：306-310, 2005

127) 伊藤芳紀：局所進行膵癌に対する化学放射線療法. 臨床放射線, (in press)

2. 学会発表

1) Multi-institutional phase II trial of proton beam therapy for organ-confined prostate cancer in Japan: Preliminary results. K. Nihei, et al. Feb 14-16, 2008, San Francisco, 2008 Genitourinary Cancers Symposium

2) Long-term follow-up of patients with gastrointestinal stromal tumors in stomach. Sawaki A, et al. 2008 ASCO-GI at Orlando Jan. 26, 2008

3) K. Minashi, A. Ohtsu, K. Mera, M. Muto, T. Yano, M. Tahara, T. Doi, M.Nishimura, K. Nihei Combination of endoscopic mucosal resection and chemoradiotherapy as anonsurgical treatments for patients with clinical stage I esophagealsquamous cell carcinoma. 2007 ASCO Annual Meeting Poster Discussion

4) Manabu Muto, Yutaka Saito, Tai Ohmori, Mitsuru Kaise, Haruhiro Inoue, Hideki Ishikawa, Hitoshi Sugiura, Atsushi Ochiai, Tadakazu Shimoda, Hidenobu Watanabe, Hisao Tajiri, Daizo Saito Multicenter Prospective Randomized Controlled Study On the Detection and Diagnosis of Superficial Squamous cell Carcinoma By Back to Back Endoscopic Examination of Narrowband Imaging and White Light Observation ASGE Topic Forum DDW2007 May

5) Manabu Muto, Yuki Asada, Mari Takahashi, Sayuri Arai, Hitomi Suzuki, Keiko Minashi, Satoshi Fujii, Shigeaki Yoshida_Endoscopic Molecular Imaging of gastrointestinal Neoplasm: A pilot Study ASGE Topic Forum DDW2007 May

6) Tomonori Yano, Manabu Muto, Keiko Minashi, Santa Hattori, Atsushi Ohtsu, Shigeaki Yoshida Endoscopic Mucosal Resection(EMR)and Photodynamaic Therapy(PDT) As Curative Salvage Treatments for Local Failure After Definitive Chemoradiotherapy (CRT) for Esophageal Cancer (EC) ASGE Poster Session DDW2007 May

7) Mayuko Saito, Manabu Muto, Tomonori Yano, Takashi Kojima, Keiko Minashi, Atsushi Ohtsu, Yosida Shigeaki Gastropexy Reduces Severe Adverse Events After Percutaneous Endoscopic Gastostomy(PEG) ASGE Poster Session DDW2007 May

8) Santa Hattori, Manabu Muto, Tomonori Yano, Keiko Minashi, Makoto Tahara, Takeshi Kojima, Naomi Kiyota, Satoshi Takeuchi, Yasumasa Ezoe, Fumio Itou, Atsushi Ohtsu, Shigeaki Yosida New Feeding Management for Percutaneous Endoscopic Gastrostomy(PEG) Using Semi-Solid Food with a New Device the CP-PEG Connector ASGE Poster Session DDW2007 May

9) Hiroaki Ikematsu, Takahiro Horimatsu, Yasushi Sano, Toyoki Kudo, Atsushi Katagiri, Manabu Muto, Kuang I.Fu, Atsushi Ohtsu, Shigeaki Yoshida Usefulness of NBI to Distinguish Between Non-Neoplastic and Neoplastic Lesions Without the Influence of Performer Whether He Is Expert Or Not ASGE Poster Session DDW2007 May

10) Hiroaki Ikematsu, Takahiro Horimatsu, Yasushi Sano, Toyoki Kudo, Atsushi Katagiri, Manabu

Muto, Kuang I. Fu, Atsushi Ohtsu, Shigeaki Yoshida Usefulness of NBI to Distinguish Between Non-Neoplastic and Neoplastic Lesions Without the Influence of Performer Whether He Is Expert Or Not ASGE Poster Session DDW2007 May

11) Takahiro Horimatsu, Hiroaki Ikematsu, Yasushi Sano, Atsushi Katagiri, Manabu Muto, Kuang I. Fu, Atsushi Ohtsu, Shigeaki Yoshida A Micro-Vascular Architecture with MBI Colonoscopy Is Useful to Predict Invasiveness and Allow Patients to Select for Endoscopic Resection Or Surgical Resection ASGE Poster Session DDW2007 May

12) Yuki Asada, Manabu Muto, New Treatment for Refractory Stricture of the Digestive Tract: Radical Incision and Cutting (RIC) ASGE Poster Session DDW2007 May

13) Manabu Muto An update on the detection of an early neoplasia in the oropharyngeal, hypopharyngeal & esophageal mucosal sites using NBI Endoscopy Masters' Forum 2007 January

14) Chemoradiotherapy for esophageal cancer - current status and future directions- K. Nihei, et al. 10/3 - 5, 2007, 横浜 66th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association (日本癌学会) (International Session Updated Radiation Therapy for the Common Cancer in East Asia)

15) Updated results of high dose proton beam therapy (PBT) for stage I non-small cell lung cancer (NSCLC). Keiji Nihei, et al. Sep 23 - 27, 2007, Barcelona ECCO14 (ESTRO26)

16) Yoshinori Morita, Toshio Tanaka, Masanori Toyoda, Yuko Matsumoto, Masaru Yoshida, Takao Tamura, Hiromu Kutsumi, Hideto Inokuchi, Takeshi Azuma. The new approach for the difficult cases in early gastric cancer treatment - Development of Double scope-ESD method DDW2007 (2007.5) 他

17) Tanabe S Live Demonstration Session, The 6th Korea-Japan Joint Symposium on Gastrointestinal Endoscopy, March 24 2007, Korea

18) Tanabe S Live Demonstration Session, Asian Pacific Digestive Week 2007(APDW2007), October 16 2007, Kobe.

19) Tanabe S Indication of endoscopic mucosal resection or endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer. XIX international Surgery Meeting and Gastric Cancer Colloquy. November 12 2007, Porto, Portugal.

20) Higuchi K, Tanabe S, et al. Phase I trial of definitive chemoradiotherapy withdocetaxel, cisplatin and 5-fluorouracil (DCF-R) for locally advanced esophageal carcinoma with T4 and/or M1 lymph-node (KDOG 0501). The 2007 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium.

21) Tsuchida T, Hoshino E, Fujisaki J, Ishiyama T, Yamamoto Y, Tatewaki, Takahashi H, Fujita R : Finding Pink Discoloration (" Pink Panther") Among "Panther Patches" on Esophageal Iodine Stain Leads to Detection of Early Esophageal Cancer, DDW 2007

22) T. Tsuchida*1, E. Hoshino1, T. Kishihara1, T. Fujisaki1, T. Hirasawa1, A. Ishiyama1, N. Ueki1, T. Ogawa1, K. Kuraoka1, M. Tatewaki1, N. Uragami1, Y. Yamamoto1, J. Fujisaki1, M. Igarashi1, H. Takahishi1, R. Fujita1 : Magnified-Narrow Band Imaging (Magnified-NBI) is Useful to Differentiate Esophageal Dysplasia with and without Cancer. , 15th. UEGW 2007

23) Miyamoto S, Aoi T, Morita S, Nitta T, Nishio A, Chiba T: B-Cap, a New Endoscopic Attachment for the Submucosal Dissection: UEGW (Paris), 2007.10.30.

24) T Yoshii, Y Miyagi, et al ; Correlation

between the expression abnormalities of E-cadherin complex and lymph node metastasis(LNM) in early gastric cancer. Proc Am Soc Clin Oncol Vol.25, No18S, 642S (abstract no. 15105), 2007

25) Manabu Muto, Advance in diagnosis of esophageal early cancer (Lecture), Diagnosis and treatment of esophageal early cancer (Live demonstration), Endoscopy Festival on Gastroenterology Beijing 2006

26) Manabu Muto, Early Detection and minimum invasive treatment for superficial squamous cell carcinoma in the esophagus and the head and neck region. - Role of Narrow Band Imaging and its breakthrough-, 第四次早期消化道癌症暨 第七次内視鏡超音波研討會 2006

27) Manabu Muto, et al., Narrow band imaging (NBI) for early detection of neoplasia at the oro- and hypo-pharynx. 3rd. World Congress of International Federation of Head & Neck Oncologic Societies, Prague 2006 (Poster)

28) Manabu Muto, NBIの消化器疾病への有用性, 3rd. Beijing International Digestive Disease Forum, 2006

29) Manabu Muto, Detection and Minimum Invasive Treatment for Early Pharyngeal Neoplasm, ASGE Video Forum DDW2006

30) Manabu Muto, Standard of Future Endoscopy - Diagnosis NBI, 6th Endoscopy Masters Forum 2006

31) Morita Y., Tamura T., et al. How can we overcome the difficult cases in early gastric cancer treatment with ESD method?: Challenging new technique with Double scop e-ESD. UEGW(ベルリン)2006.10

32) Higuchi K, Tanabe S, et al., Phase I trial of definitive chemoradiotherapy withdocetaxel, cisplatin and 5-fluorouracil (DCF-R) for locally advanced esophageal carcinoma with T4 and/or M1 lymph-node (KDOG 0501). the 2007 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium.

33) Higuchi K, Tanabe S, et al., Expansion of the indications for endoscopic mucosal resection in patients with superficial esophageal carcinoma. 2006 UEGW.

34) Ito Y, et al. Long-term results of definitive chemoradiotherapy for clinical stage I squamous cell carcinoma of the esophagus. 48th Annual Meeting of the American Society for Therapeutic Radiology and Oncology, November 5 - 9, 2006 in Philadelphia, PA, USA.

35) Minoru Matsuura, Tsutomu Chiba, et al.: Basic Fibroblast Growth Factor-Induced Multidrug Resistance 1 Expression Plays An Important Role in the Protective Effect On Intestinal Epithelial Injury: Digestive Disease Week and the 107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute・oral sessions, 2006.5.20.

36) Sakae Mikami, Tsutomu Chiba, et al.: Critical Role of CXCL12-CXCR4 Interaction in the Pathophysiology of Inflammatory Bowel Disease: Digestive Disease Week and the 107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute, 2006.5.20.

37) Hiroshi Nakase, Tsutomu Chiba, et al.: Maintenance Therapy with Tacrolimus in Patients with Crohn's Disease Refractory to Azathiopurine: 2 Years Trial: Digestive Disease Week and the 107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute, 2006.5.20.

38) Miyamoto S, Tsutomu Chiba, et al.: A New Endoscopic Attachment for the Submucosal Dissection: Digestive Disease Week and the

107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute, 2006.5.23.

39) H.Fukui, Tsutomu Chiba, et al.: Expression of REG IV gene in ulcerative colitis and colitic cancer: The 16th International Symposium on Regulatory Peptides (REGPEP'06), 2006.8.30.

40) Mikami S, Tsutomu Chiba, et al.: Critical Role of CXCL12-CXCR4 Interaction in the Pathophysiology of Inflammatory Bowel Disease (poster session): Japan-Korea IBD Symposium, 2006.9.23.

41) T. Oyama, TLive demo: a case of esophageal cancer. 6th ESD live demonstration seminar, 2006

42) T. Oyama, Endoscopic Submucosal Dissection with Hook Knife. Korea Gastrointestinal Endoscopy Society, 2006

43) T. Oyama, ESD for Superficial Esophago-Gastric Cancers. International Workshops on Diagnosis and Therapy of Gastrointestinal Cancer, 2006

44) T. Oyama, ESD with hook knife for superficial esophageal cancer, The 14th UEGW in Berlin, 2006

45) T. Oyama, Endo Update2006. ESD with hook knife, Augsburg, Germany, 2006

46) Manabu Muto. Endoscopic salvage treatment for local failure after definitive chemoradiotherapy (CRT) for esophageal cancer (EC) ASCO 2005 May (Poster)

47) Manabu Muto. Endoscopic screening for cancer in the hypopharynx and esophagus by NBI. 2nd OMED (Organisation Mondiale D'endoscopie Digestive) Spring Meeting 2005 May.

48) 小野 裕之. NEW TREATMENT OPTION FOR SUBMUCOSAL GASTRIC CANCER BY COMBINATION OF PHOTODYNAMIC THERAPY AND ENDOSCOPIC SUBMUCOSAL DISSECIOTION。第13回欧州消化器病週間

49) K. Nihei, et al. High dose proton beam therapy (PBT) for stage I non-small cell lung cancer (NSCLC). 2005, Orlando, FL, the 41st annual meeting of American Society of Clinical Oncology (ASCO)

50) 武藤 学 新しい内視鏡診断の可能性-器機進歩-第73回日本消化器内視鏡学会総会 シンポジウム2にて司会 (2007年5月)

51) 堀松 高博、矢野 友規、土井 俊彦、武藤 学、三梨 桂子、細川 歩、大津 敦、吉田 茂昭 適応拡大した早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) の治療成績、予後の検討 (2007年5) 第73回日本消化器内視鏡学会総会 一般演題 (ポスターセッション) 2007年5月

52) 矢野 友規、武藤 学、三梨 桂子、大津 敦 食道癌化学放射線療法後の局所遺残再発に対する内視鏡的サルベージ治療第73回日本消化器内視鏡学会総会 一般演題 (プレナリーセッション) 2007年5月

53) 武藤 学、内視鏡医からの消化管検査と術式、放射線技師のセミナー 講演、2007

54) JCOG0401前立腺癌術後PSA再発臨床試験における放射線治療QAの初期経験 二瓶 圭二、他 平成19年12月13-15日 第20回日本放射線腫瘍学会(福岡)

55) cStageII-III食道癌に対する化学放射線療法(CRT)を中心とした治療体系 二瓶 圭二、他 平成19年12月13-15日 第20回日本放射線腫瘍学会(福岡)

56) 田辺 聡 食道表在癌に対するEAMの有用性. ワークショップ,第84回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2007.6, 東京

57) 田辺 聡「内視鏡診断・治療を安全に行うための工夫」ワークショップ司会, 第85回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2007.11, 東京

58) 西崎 朗、他 早期胃癌に対するESD－非ESDとの比較 日本消化器病学会 パネルディスカッション 2007年４月

59) 西崎 朗、他 表在性Barrett食道癌症例の検討 日本食道学会 シンポジウム 2007年６月

60) 土田知宏、石山晃世志、高橋寛：NBI併用拡大内視鏡観察による食道表在癌の質的診断　７３回内視鏡学会総会　パネルディスカッション 2007

61) 土田知宏　瀬戸泰之　石山晃世志　平澤俊明　帯刀誠　福田　俊　陳勁松　小塚拓洋　加藤洋：M3・SM1食道癌におけるリンパ節転移予測因子　第61回食道学会　パネルディスカッション 2007

62) 伊藤芳紀、他. 臨床病期I期（cT1bN0M0）食道扁平上皮癌に対する根治的化学放射線療法の長期治療成績. 第61回日本食道学会学術集会 2007年6月21日-22日 東京.

63) 宮本心一、青井貴之、千葉　勉：粘膜下層剥離術におけるフード型双極ナイフ(B-Cap)の使用経験：DDW-Japan 2007（ビデオシンポジウム), 2007.10.13.

64) 長谷川豊、田中茂子、田中正博、他. メタボリック症候群診断におけるMRI(水抑制３DT１TFE)での内臓脂肪、心臓周囲脂肪の体積測定―１. 第35回日本磁気共鳴学会医学会大会平成19年9月27～29日

65) 森本勝士、田中茂子、田中正博、他. メタボリック症候群診断におけるMRI(水抑制３DT１TFE)での内臓脂肪、心臓周囲脂肪の体積測定―２. 第35回日本磁気共鳴学会医学会大会平成１９年９月27～29日

66) 田中茂子、葭山　稔、田中正博、他. メタボリック症候群診断におけるMRI（水抑制3DT1TFE）での内臓脂肪Epicardial fat体積測定. 第43回日本医学放射線学会秋季臨床大会平成19年10月25～27日

67) 吉井貴子、本橋　修、西村　賢、中山昇典、高木精一、亀田陽一：EMRによる局所コントロールに成功した化学・放射線治療後進行食道癌の2例：～集学的治療の中でのsalvage EMRの意義～：Gastroenterogical Endoscopy. Vol.49(supplement 1): p856.（第73回内視鏡学会総会2007/5/9 東京）

68) 吉井貴子、本橋　修、西村　賢、中山昇典、高木精一、亀田陽一：EMRが局所コントロールに寄与した進行食道癌化学放射線療法後遺残の2例：（第61回食道学会学術集会　2007/6/22 横浜）

69) 吉井貴子、亀田陽一、西村　賢、中山昇典、高木精一、本橋　修、高田　賢、南出純二、青山法夫：食道粘膜内癌内視鏡的粘膜切除後局所再発11例の検討：第58回食道色素研究会 2007/11/10　京都（英文抄録Esophagus 掲載予定）

70) 本橋　修、高木精一、西村　賢、中山昇典、柳田直毅、吉井貴子、佐野秀弥：ESD時代における通常EMRの意義（ESD100症例とEMR-Lによる700症例の比較検討）第84回日本消化器内視鏡学会関東地方会2007年6月8日　シンポジウム1

71) 本橋　修、柳田直毅、吉井貴子、高木精一、西村　賢、中山昇典：内視鏡手技における私の工夫（粘膜把持鉗子用チャンネル付き透明フードを用いるESD）：本橋　修、柳田直毅、吉井貴子、高木精一、西村　賢、中山昇典：第84回日本消化器内視鏡学会関東地方会2007年6月8日　ワークショップ2-1

72) 本橋　修、柳田直毅、吉井貴子：ESDの標準化のための手技（インパクトシューターを用いる二点固定ESD）：JDDW　第74回日本消化器内視鏡学会総会　2007年10月21日　ビデオシンポジウム5

73) 柳田直毅、本橋　修、吉井貴子、中山昇典、西村　賢、高木精一、佐野秀弥：内視鏡的に切除し得た胃・十二指腸重複癌の２症例：JDDW　第74回日本消化器内視鏡学会総会　2007年10月21日

74) 武藤　学、食道癌治療の新たな展開、新都心消化器カンファレンス、2006

75) 武藤　学、呼気による扁平上皮癌発生危険度の簡易判定方法とそのための装置、新技術説明会「健康・長寿関連」、2006

76) 武藤　学、上部消化管領域におけるNBIの有用性」～NBIは色素内視鏡を超えられるか～、第83回日本消化器内視鏡学会関東地方会ランチョン

セミナー、2006

77) 武藤　学、消化管早期癌のあたらしい診断法―ＮＢＩ拡大観察の有用性について、第13回四国地区内視鏡懇談会にて講演、2006

78) 武藤　学、酒と体質とがん－発がんのメカニズム解明と早期発見への新展開―、福島県病院薬剤師会、いわき市薬剤師会　学術講演会、2006

79) 武藤　学、シンポジウム７「呼吸器・消化器疾患の細心の光診断」、Narrow band imaging(NBI)が消化管内視鏡検査にもたらすbreakthrough、第27回日本レーザー医学会総会　シンポジウムにて講演、2006

80) 矢野　友規、武藤　学、他、シンポジウム４「レーザー内視鏡治療の現況と展望」、食道癌化学放射線療法後の局所遺残再発病変に対する光線力学療法、第27回日本レーザー医学会総会シンポジウムにて講演、2006

81) 武藤　学、食道がんとアルコール、千葉・柏たなか病院　講演会、2006

82) 武藤　学、PEGｶﾃｰﾃﾙの選択基準とは-真のQOLの追求-　癌治療におけるPEGの適応癌治療、第14回日本消化器関連学会週間（DDWJ2006）ランチョンセミナーにて講演、2006

83) 矢野　友規、武藤　学、他、食道癌化学放射線療法後の局所胃残再発に対する内視鏡的サルベージ治療、第14回日本消化器関連学会週間（DDWJ2006）ポスターにて発表、2006

84) 武藤　学、病態の解明から治療への応用へ、第14回日本消化器関連学会週間（DDWJ2006）ワークショップにて発表、2006

85) 武藤　学、食道癌化学放射線療法（CRT）の位置づけと今後の展開、第14回日本消化器関連学会週間（DDWJ2006）パネルディスカッションにて基調講演、2006

86) 武藤　学、食道癌化学放射線療法後の救済治療としての内視鏡的粘膜切除術（EMR）と光線力学療法（PDT）、第58回日本気道食道科学会総会ならびに学術講演会　シンポジウムにて発表、2006

87) 武藤　学、化学療法・内分泌療法　その他の治療、医学情報誌『Current Review of Gastroenterology　展望－上部消化管疾患』Vol.11 no3　「消化管の血管性病変」座談会出席、2006

88) 武藤　学、化学療法・内分泌療法　その他の治療、第65回日本癌学会学術総会にて一般演題座長、2006

89) 武藤　学、新しい消化管癌の診断－NBI拡大観察の有用性、第10回千葉県東総地区消化器症例検討会にて講演、2006

90) 武藤　学、中・下咽頭表癌の内視鏡的治療、岡山大学GIカンファレンス、2006

91) 武藤　学、早期癌の新しい内視鏡診断法－NBIについて（下咽頭、食道、胃）、第46回　沖縄県中部地区医師会合同カンファレンスにて講演、2006

92) 武藤　学、中・下咽頭の内視鏡解剖と中・下咽頭食道癌の内視鏡診断、第31回　宮崎木曜会夏季セミナー講師、2006

93) 武藤　学、上部消化管に対するECSの可能性、第8回　Endoscopy Forum Japan 2006　司会、2006

94) 武藤　学、NBIにおける消化管病変の診断、岡山大学GIカンファレンス、2006

95) 武藤　学、食道がん治療の新たな展開、久留米消化器病研究会、2006

96) 大幸宏幸、武藤　学、他、切除可能胸部食道癌に対する根治的化学放射線療法後のsalvage食道切除、第60回　日本食道学会学術集会シンポジウム、2006

97) 三梨桂子、武藤　学、他、StageⅡ－Ⅲ食道癌に対するRTOGレジメンを用いた根治的化学放射線療法（CRT）の治療成績、第60回　日本食道学会学術集会ポスター、2006

98) 江副康正、武藤　学、他、食道癌EMR後狭窄に対する予防的拡張術の有用性、第60回　日本食道学会学術集会ポスター、2006

99) 武藤　学、中・下咽頭表在癌のリスクと診断・治療、第21回　日本消化器病学会近畿支部講演会、2006

100) 武藤　学、食道癌診療のあらたな展開、第22回

兵庫県食道癌研究会、2006

101) 武藤　学、治療成績向上を目指した食道癌治療のあらたな展開、第8回　播磨消化器内視鏡懇話会、2006

102) 武藤　学、アルコールと口腔・咽頭および食道癌　―アルコール代謝酵素の関連―、第30回日本頭頸部癌学会シンポジウム、2006

103) 林　智誠、武藤　学、他、原発不明がん頭部転移症例に対する消化管用NBIの有用性の検討、第30回　日本頭頸部癌学会　一般口演、2006

104) 武藤　学、内視鏡消化管検査について、第7回東葛放射線画像セミナー、2006

105) 司会　門馬　久美子、武藤　学、滝澤　登一朗、この疾患をどう診断・治療するか？１）食道、第71回　日本消化器内視鏡学会総会　パネルディスカッション、2006

106) 武藤　学、食道EMR後の予防的バルーン拡張術の有用性について、第71回　日本消化器内視鏡学会総会　サテライトシンポジウム、2006

107) 江副　康正、武藤　学、他、胃の陥凹性小病変診断におけるNBI(narrow band imaging)システム併用拡大内視鏡観察の有用性、第71回　日本消化器内視鏡学会総会、2006

108) 矢野　友規、武藤　学、他、食道放射線化学療法後の局所遺残再発例に対する光線力学療法、第71回　日本消化器内視鏡学会総会、2006

109) 武藤　学、他、食道表在癌に対するEMR/RSDの治療方針、第92回　日本消化器病学会総会、2006

110) 武藤　学、臓器温存を目指した食道癌治療のあらたな展開、第8回　群馬食道疾患談話会、2006

111) 武藤　学、アルコール代謝と食道および頭頸部の癌　ー診断と治療のあらたな展開ー、第233回消化管研究会、2006

112) 武藤　学、消化管癌の診断　ー通常観察から微小血管像までー、第195回　木曜会、2006

113) 武藤　学、食道癌治療のあらたな展開、第24回岡山胃腸研究会、2006

114) 武藤　学、中・下咽頭表在性癌の診断と治療、第9回　千葉頭頸部腫瘍研究会、2006

115) 武藤　学、治療成績向上を目指した食道癌化学放射線療法のあらたな診療体系、Gastrointestinal Chemotherapy Conference、2006

116) 二瓶　圭二、他、食道癌放射線治療における不均質補正有無による線量分布の相違（導入に向けた検証）　平成18年11月23-25日　第19回日本放射線腫瘍学会（仙台）

117) 小野裕之　早期胃癌に対する適応拡大の成績と長期予後　日本胃癌学会総会　シンポジウム　2006年3月1日

118) 末松佳奈，田村孝雄，他：遺伝子診断に基づく食道癌化学療法の適正化(会議録)：日本薬学会126年会講演要旨集(0918-9823)3号 Page113(2006.03)

119) 廣江訓子，田村孝雄，他：食道癌放射線化学療法患者に対する遺伝子型診断を用いた治療効果予測の可能性について(会議録)：臨床薬理(0388-1601)37巻Suppl. PageS227(2006.11)

120) 奥野達哉，田村孝雄，他：食道癌化学療法における5-FU血漿中濃度推移と副作用との相関(会議録)：日本消化器病学会雑誌(0446-6586)103巻臨増大会 PageA538(2006.09)

121) 高橋　寛、食道m3・sm1癌に対する内視鏡的粘膜切除術の治療成績　第60回食道学会　パネルディスカッション　2006

122) 高橋　寛、表在食道癌の適応拡大病変に対する内視鏡的粘膜切除術の標準化　DDW-J パネルディスカッション2006

123) 門馬　久美子、第92回日本消化器病学会総会発表予定

124) 伊藤芳紀、他. 臨床病期I期食道扁平上皮癌に対する根治的化学放射線療法の長期治療成績. 第19回日本放射線腫瘍学会学術集会 2006年11月23日-25日 仙台.

125) 玉置敬之、千葉 勉、他: Thioredoxin-1のIBDへの関与とDextran sodium sulfate腸炎抑制効果の検討： 第92回日本消化器病学会総会・シンポジウム，2006.4.20.

126) 上野　哲、千葉 勉、他: 免疫抑制剤治療によるクローン病患者の脂質摂取量及び栄養状態の改

善： 第92回日本消化器病学会総会・シンポジウム，2006.4.20.

127) 井上聡子、千葉 勉、他：急性膵炎の重症度とコルチゾール値についてのrapid ACTH負荷試験を用いた検討： 第92回日本消化器病学会総会・シンポジウム，2006.4.20.

128) 北村　浩、千葉 勉、他：慢性腸管炎症に伴う線維化におけるHsp47は治療標的分子になりうるか：第92回日本消化器病学会総会・ワークショップ，2006.4.20.

129) 宮本心一、千葉 勉、他：フード型双極ナイフを用いた粘膜下層剥離術：第６回内視鏡的粘膜切除術研究会，2006.7.16.

130) 宮本心一、千葉 勉、他：表在食道癌に対するフード型双極ナイフの有用性：第33回京滋食道疾患懇話会，2006.7.22.

131) 宮本心一、千葉 勉、他：フード型双極ナイフ(B-Cap)を用いた粘膜下層剥離術：第77回消化器内視鏡学会地方会，2006.9.23.

132) 宮本心一、千葉 勉、他：粘膜下層剥離術におけるフード型双極ナイフ(B-Cap)の有用性：第48回日本消化器病学会大会，2006.10.13.

133) 宮本心一、千葉 勉、他：フード型双極ナイフ(B-Cap)を用いた粘膜下層剥離術：第5回消化器病フォーラム，2006.12.2.

134) 宮本心一、千葉 勉、他：フード型双極ナイフ(B-Cap)を用いた粘膜下層剥離術：第15回クリニカルビデオフォーラム，2007.2.17.

135) 石原立、飯石浩康．高齢者表在食道癌に対するEMRの有用性．第71回消化器内視鏡学会総会．2006.5（東京）［パネル］

136) 石原立、飯石浩康．食道癌に対する粘膜下深層剥離の有用性．－ sm癌の切除を見据えて－ 第60回日本食道学会2006.7.1（東京）［ビデオシンポ］

137) 小山恒男、食道表在癌の診療と治療、内視鏡学会東海セミナー、2006

138) 小山恒男、正確な術前診断による内視鏡的粘膜下層剥離術、第15回日本消化器内視鏡学会北陸セミナー、2006

139) 小山恒男、ESDの各デバイスの特徴と使い方の実際、第5回国際消化器内視鏡セミナー、2006

140) 小山恒男、食道表在癌に対する拡大内視鏡診断とESD、第7回茨城県食道疾患懇話会、2006

141) 小山恒男、ESD with hook knife. 第4回TV-Takeda Alimentary Conference、2006

142) 小山恒男、ESD時代の内視鏡診断学、第92回日本消化器内視鏡学会関東地方イブニングセミナー、2006

143) 小山恒男、Barrett腺癌の早期診断、横浜消化器内視鏡医会第99回集談会、2006

144) 小山恒男、ESD with hook knife, がん学術セミナー、2006

145) 小山恒男、内視鏡教育法ー診断からESDまでー、第10回杉並内視鏡研修研究会、2006

146) 小山恒男、食道・胃表在癌の内視鏡診断とＥＳＤ、第2回鹿児島消化器先端医療セミナー、2006

147) 小山恒男、食道癌・胃癌のＥＳＤー偶発症予防のコツ、内視鏡学会東海セミナー、2006

148) 小山恒男、早期食道癌・早期胃癌内視鏡治療、第9回近畿消化器内視鏡ガイドライン講習会、2006

149) 三梨　桂子、武藤　学．食道粘膜下層浸潤（sm）癌に対する内視鏡的粘膜切除＋化学放射線療法の治療成績（シンポジウム）第57回　日本食道学会学術集会（2005年6月）

150) 三梨　桂子、武藤　学、他．食道粘膜下層浸潤（sm）癌に対する治療戦略（シンポジウム）第70回　日本消化器内視鏡学会総会（DDW-Japan2005）（2005年10月）

151) 小野　裕之．ITナイフを用いたESDと今後の展開。第29回消化器内視鏡学会セミナー

152) 高橋　寛．第59回日本食道学会

153) 高橋　寛．第70回日本消化器内視鏡学会（第13回DDW-J）

154) 田辺 聡、他．内視鏡的吸引粘膜切除法（EAM）による早期胃癌、食道表在癌に対するEMRのコツとPitfall．第69回日本消化器内視鏡学会総会（ビデオシンポジウム）（2005/5/26）東京

155) 田辺　聡 、他．門脈圧亢進症におけるGAVE、